

▽ 李 炫姫 (イ ヒョンジョン) 教授 LEE, Hyun -Jung



所 属：産業情報学部 企業システム学科
 担当科目：韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、外国語研究Ⅰ・Ⅱ
 国際理解課題研究Ⅰ・Ⅱ 他
 日本語教育学特論Ⅰ・Ⅱ（大学院）

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

① 桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻博士後期課程修了
② 博士(学術)
③ 日本語教育学会、日本国際理解教育学会、沖縄外国文学会、日本韓国語教育学会 など
④ 大韓日本文化学会海外理事、韓国日本近代学会国際理事、韓国語能力試験沖縄会場総責任者、平成26年度沖縄県多言語表記統一に関する委員会委員 など

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動		
1) 韓国語Ⅰ(前期) 韓国語Ⅱ(後期)	2008年4月～	全学共通科目。各クラスは学科・年次指定有り。受講者は上限45名。韓国語初級レベルに相当し、韓国語Ⅱまでを通して韓国語関連検定の初級合格を目指す。
2) 韓国語Ⅲ(前期) 韓国語Ⅳ(後期)	2008年4月～	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修済みの2年次以上の全学共通クラス。受講者は30～35名。韓国語中級レベルに相当し、韓国語関連検定の中級合格を目指す。
3) 国際理解課題研究Ⅰ 国際理解課題研究Ⅱ (旧、「アジア研究ゼミ」)	2010年4月～	2014年より「国際理解課題研究」の科目名。共通科目における通年の演習科目。履修者は10名以内の少人数。東アジアの中でも隣国の韓国に焦点を当て、日韓比較によるミニ一発表と論文作成。
4) フレッシュマン・セミナー	2010年4月～	企業システム学科1年次の演習科目。履修者は20～25名。大学生として必要とされる基礎知識・基礎スキルを身に付けていくための科目。
5) 外国語研究Ⅰ(前期) 外国語研究Ⅱ(後期)	2013年4月～	共通科目。2014年度より「外国語研究」の科目名。韓国語の上級レベルとして位置づけられ、主に韓国留学

<p>(旧、「韓国語会話を楽しむ」)</p> <p>6) 日本語教育学特論 I (前期)・II (後期)</p>	<p>2013 年 4 月～</p>	<p>を目指す人および韓国留学を終えた人たちを対象。 大学院地域文化研究科英米言語文化専攻の言語教育学領域日本語教育学系列の講義。前期 2 単位、後期 2 単位。今日における日本語教育学は何かを「社会・言語・文化」の関連から考えていく。</p>
<p>2. 学生支援活動</p> <p>1) オフィス・アワー</p> <p>2) 自律学習クラス</p> <p>3) 留学サポート</p> <p>4) 学内韓国語スピーチコンテスト</p> <p>5) 韓国語能力試験対策および実施</p> <p>6) 韓国語合宿</p>	<p>2008 年～2012 年</p> <p>2008 年～</p> <p>2008 年～</p> <p>2010 年～</p> <p>2013 年～</p>	<p>毎週月曜日 4 時限</p> <p>韓国語IVまで履修済みの学生、および留学経験済み学生の要望により、語学力維持の場として週 1 回設けていたクラス。学生が自分のニーズに気づき自ら学習目標を設定して学習を進めていくようにサポートした。</p> <p>毎年姉妹校に交換留学する学生たちへの事前サポート。留学に向けて学習面でのサポートはもちろん、交換留学生としての心構えをしっかりと持たせることが目的。また、私費留学を目指す学生へのサポートもある。</p> <p>学内の外国語センター主催で全学対象に毎年行っているイベント。学生はレベルを問わず様々なテーマのスピーチ原稿を準備して披露。</p> <p>本校が沖縄県の韓国語能力試験本会場となっており、学内外で 200 名以上、学内学生だけでも 50 名近く受験している。対策講座は本学学生向けであるが、試験実施においては地域貢献として試験場を提供している。</p> <p>外国語センター主催の年 1 回のイベント。学校施設のセミナーハウスで韓国語漬けの 1 泊 2 日間を過ごすもの。本学非常勤講師やネイティブゲストなどが参加し、講義や韓国語学習に役立つゲーム、料理体験など様々な活動をしており、学生からも好評を得ている。</p>
<p>3. 学外での教育活動</p> <p>1) 非常勤講師</p> <p>・コリア語 I ～ VI</p> <p>・対照表現演習： 日韓翻訳・通訳</p> <p>・言語教授法</p>	<p>2003 年 9 月～ 2008 年 3 月</p> <p>2007 年 4 月～ 2008 年 3 月</p> <p>2007 年 4 月～ 2008 年 3 月</p>	<p>桜美林大学の全学向けの韓国語授業。レベル I ～ VI までの 6 つのクラス担当。その他、桜美林大学生涯学習センター「オープンカレッジ」でも兼任講師として初・中級クラス担当。</p> <p>桜美林大学国際教育センターの科目。日韓の翻訳・通訳のスキルについて実践する講義。</p> <p>桜美林大学文学部言語コミュニケーション学科の専門科目。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

- ・「『文化リテラシー』育成を目指す韓国語教育－初級クラスにおけるグループワークの実践から－」『外国語研究 18-2』沖縄国際大学外国語学会 pp.51-68、2015 年
- ・「学習者のリテラシーを生かした韓国語学習－クラス間の連携を図って－」『日本語教育の現場から－言葉を学ぶ/教える場を豊かにする 50 の実践－』ココ出版 pp.226-240、2015 年
- ・「韓国の教育現実と早期留学－現実から今後を問う－」『外国語研究 16-1』沖縄国際大学外国語学会 pp.1-13、2012 年
- ・「構成主義的教育観にたつ外国語教育－韓国語『自律学習』クラスから見えるもの－」『外国語研究 14-1』沖縄国際大学外国語学会 pp.55-69、2010 年
- ・「韓国済州地域に見られる日本語教育の現状と特徴－韓国全般における日本語教育と比較して－（共著：尚真貴子）」『南島文化 32』沖縄国際大学南島文化研究所 pp.21-47、2010 年
- ・「韓国の教育課程と年少者日本語教育の現状と課題」『外国語研究 13-1』沖縄国際大学外国語学会 pp.13-27、2009 年
- ・「クリスピー・クリーム・ドーナツとロッテの企業戦略」『産業情報論集 5-2』沖縄国際大学産業情報学部 pp.29-38、2009 年
- ・「韓国の教育政策と早期留学－親の意識から現状を探る－」『言語政策 4』日本言語政策学会 pp.58-78、2008 年
- ・『モンゴルの風－ワークブック－』桜美林大学モンゴルワークブック開発グループ（2 課・15 課 担当）、2008 年
- ・『モンゴルの風－ワークブック－《教師用指導書》』桜美林大学モンゴルワークブック開発グループ（2 課・15 課 担当）、2008 年
- ・「国際理解教育の実践分析－交流効果を中心として－」『国際理解教育 13』日本国際理解教育学会 pp.26-43、2007 年
- ・「コア語授業における PBL 学習モデルの試み－上級レベルのクラスを対象に－」『OBIRIN TO DAY2007』桜美林大学教育センター pp.85-99、2007 年
- ・「バイリンガルを目指す早期留学支援の現状－韓国における『雁パパ』の意識から－」『日本語教育と国際理解教育の接点に関する総合的研究－韓国人年少者日本語教育における教育パラダイムの転換－』桜美林大学大学院国際学研究所 博士学位論文、2006 年
- ・「日・韓における国際理解教育の今後へ向けて」『桜美林国際学論集 Magis 10』桜美林大学国際学研究所 pp.1-16、2005 年
- ・「韓国の年少者日本語教育に見られる『文化』概念」『21 世紀の「日本事情」 5』くろしお出版 pp.130-139、2003 年

研究分野

年少者日本語教育、外国語としての韓国語教育、外国語教育政策、国際理解教育

【E メール・ホームページ等】

hlee@okiu.ac.jp

平成 27 年 4 月 10 日現在